

選択的評価基準

2. 職業教育の取り組みについて

基準 (1) 短期大学における職業教育の役割・機能、分担を明確に定めている。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学は、建学の精神を基本理念として、専門的な知識技能を修得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって社会に貢献できる心身ともに健全なる人物を養成し、併せて有能な職業人としての資質を養うことを目的に掲げている。この目的達成のため、本学では、入学から卒業まで一貫した各学科の特性にあわせた職業教育を全て継続して実施している。本学は、クラス担任制をとっており、クラス担任は2年間同じ学生を指導する体制である。

学生に対しては、入学前セミナー、ガイダンス、新入生合宿研修、保育実習、教育実習、実習講習会、企業見学、「キャリアセミナー」、「キャリアデザイン総論・演習」、「模擬面接会」、「インターンシップ」などを通して、各学科の特徴に合わせた職業教育・キャリア教育を外部講師や専任教員、事務職員が分担して実施している。その結果が、多くの資格取得や高い就職率に現れている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

特になし。

基準 (2) 職業教育と後期中等教育との円滑な接続を図っている。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学の入学生は、普通科・総合学科・専門学科卒業の学生からなり、本学卒業後の進路目標が明確でない学生も少なからずいる。後期中等教育と本学での職業教育との円滑な接続のため、高校からの要請による出前講座、オープンキャンパス、高校教員に対する進学説明会などの機会を捉え、3学科の特性に合わせた本学の職業教育の内容や実施体制等の説明を行っている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

特になし。

基準 (3) 職業教育の内容と実施体制が確立している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

各学科の職業教育の内容と実施体制は次のとおり確立している。

【幼児教育学科】

同学科の教育課程は、2年間で幼稚園教諭と保育士資格の取得を目指したものであり、専門科目のすべてが職業教育に直結しているといえる。本学ではすべての開講専門科目の受講を強く推奨し、学生もそれに対応している。この内、本学独自の「特化教育」科目は、「学生が自ら求める方向を選び、力を注ぎたい科目を集中的に深く学ぶ」ことを目的とした実質的な選択科目となっている。この取組は、平成20(2008)年度に北陸の短期大学で唯一選定された文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム」の中核をなすもので、高い評価を得ている。学内における学習のみでなく、教育・保育・子育て支援の「現場」を重視し、現場参加学習を活発に行っている。その結果として、子どもたちや幼児教育の専門家と触れ合いながら、生きた知識と技術を身につけている。これらの成果は、成果発表会でまとめている。

また、教育実習・保育実習についても、学内での通常授業時間数との両立を図りながら体験学習(事前学習)や事後学習を含めて実習時間を最大限確保している。各実習の前にはそれぞれの分野の現職を講師とした「実習講演会」を3回開催している。また、実習終了後には1・2年生・同学科教員全員に非常勤講師も参加する「実習報告会」を開催している。さらに実習実施先と本学教職員との「実習懇談会」も開催し、より効果的な実習とするため活発な意見交換が行われている。

就職支援では、「幼稚園就職模擬面接会」、「保育園就職模擬面接会」を学内で開催している。さらに、公務員試験(保育士)合格のためのサポートも行い、平成24(2012)年度には8人が合格した。

【美術学科】

一般教育科目として「キャリアセミナー」(選択科目)を1年後期と2年前期に分割開講している。この科目は、「美術学科の学生はいつの時代も自分の創作と仕事をどのように結びつけるのかという問題に悩む」との認識のもと、制作系への就職と共に美術と直接関係がなさそうな仕事の中に自分の持ち味をどう活かすかを目的に、教学就職進学支援部の美術学科教員が担当している。1年後期は自己分析、卒業生の体験談、就活マナーなどの内容で、最後に本学で「模擬“企業ガイダンス”」(出講企業7社)を行っている。2年前期には自己理解と自己分析、エントリーシートの書き方、卒業生の講演、グループ別ワークを行って、就職活動の実践的な支援をしている。

専門科目では各分野の基本だけでなく、応用的な演習科目も開講し、実践的な制作力の養成を目指している。特に、2年前期の「公開オーディション」は現場の審査員の評価を得ることにより、職業教育として有効である。

検定試験に関連する科目として「色彩学」、「オフィス演習Ⅰ」(必修科目)、「コンピュータ表現演習Ⅰ」、「コンピュータ表現演習Ⅱ」、「オフィス演習Ⅱ」(選択科目)を開講し、検定取得を奨励している。

【ビジネス実務学科】

1年前期に「キャリアデザイン総論」、1年後期に「キャリアデザイン演習Ⅰ」、2年前期に「キャリアデザイン演習Ⅱ」（すべて専門必修科目）を開講し、初年次教育及びキャリア教育を実施している。ビジネスキャリアコースでは、職種に密接した内容のカリキュラムを設定した各専門プランを1年後期から選択するようにしている。これへの対応も含め、キャリア教育の具体的な内容として、次のようなものがある。

「キャリアデザイン総論」

- ・ 基本マナーやコミュニケーション・スキルの自己評価
- ・ 職業に対する自分の興味や適性についての自己診断
- ・ 専門プランの典型的な職種を学ぶ企業人講話

「キャリアデザイン演習Ⅰ」

- ・ 就職活動支援講座Ⅰ
- ・ 企業研究演習
- ・ 人事担当者による講話
- ・ 先輩からの就職活動アドバイスⅠ（2年就職内定者）
- ・ 模擬「企業ガイダンス」

「キャリアデザイン演習Ⅱ」

- ・ 就職活動支援講座Ⅱ
- ・ 先輩からの就職活動アドバイスⅡ（卒業生）
- ・ ビジネスキャリアとライフプラン講話
- ・ 「チームワーク」「コンセンサス」トレーニング等グループワーク（社会人基礎力修得のためのアクティブラーニング）

同学年全学生が同時に履修するが、科目担当者のほか該当クラスのクラス担任も必ず加わり、きめ細かく学生をサポートしている。

また、全学生を対象にインターンシップも単位化して実施している。「インターンシップⅠ」（選択2単位）を1年の夏季休暇期間に、「インターンシップⅡ」（選択2単位）と「インターンシップⅢ」（選択1単位）を1年の春季休暇期間に実施している。インターンシップ先は、文部科学省の「産業界ニーズGP」の取組で設置している「産学連携人材育成研究会」の企業・機関を中心に独自に開拓している。実習期間中はクラス担任が実習先を訪問して実習の様子等を把握するとともに、実習後は報告会や受け入れ機関との懇談会も開催して意見交換を行っている。なお、平成24（2012）年度は、「インターンシップⅠ」を19人、「インターンシップⅡ」を43人、「インターンシップⅢ」を1人が履修し単位取得している。

検定取得に関しては、全ての科目でビジネスに有効な授業内容と関連した検定試験の有無を点検し、授業内や検定試験対策講座を開くなど検定取得を組織的にサポートしている。また、全検定試験結果をデータベースで管理し、各学年末には検定取得優秀者を表彰している。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

美術学科の学生は、本学に限らず就業意識が決して高くないという現状があり、自活意識の向上を図る取組が今以上に必要である。

ビジネス実務学科のインターンシップ受入先については、年々希望者が増えていることから、学生の希望職種や希望地域を考慮してさらなる充実が必要である。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

本学が実施している文部科学省「産業界ニーズ GP」の取組「産業界と学生をつなぐ教育プロジェクト」を推進していく中で、美術学科学生の企業見学等の機会を増やすとともに、ポートフォリオ制作を通して学生の就業意識の向上を図っていく。また、同プログラムを通じて学生の要望に応じたインターンシップ受け入れ先の開拓を進めていく。

基準 (4) 学び直し (リカレント) の場としての門戸を開いている。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

学び直しの場合として、本学幼児教育学科では、新卒者を対象に「フォローアップ講座」を日曜日に開催している。この講座の主たる目的は、「就職して6か月余り過ぎた卒業生が、職場で経験する数々の困難の解消やより良い人間関係を築くための支援を行う」ことである。平成24(2012)年度は、8月28日と9月11日の日曜日に開催した。

講座の内容は、美術表現“子どものまなざしを共有できること、「表現」を見るのが楽しくなる”、音楽表現“表現を楽しむ”、障害児保育“障がい児と共に育つために”と題した講義と交流会である。2回合わせて37人の卒業生の参加があり、職場の人間関係、保護者への対応、気になる子(困難をかかえる子、障がいのある子)への対応、子どもの把握の弱さや技術の未熟さなどについて活発な意見交換が行われた。

また、平成23(2011)年度から「特化教育」科目に、既卒者・現職保育者を受け入れる「リカレント教育」を試行的に開始した。平成24(2012)年度の受講生は、乳児保育1人、障害児保育4人、音楽1人の計6人であった。1年間の学びの成果を学外関係者・2年生の前で研究発表した。その内容は豊かな経験をバックボーンにしたレベルの高いものであり、在学生の学びに資することも多く、本学の研究分野に新しい風を吹き込むものとなった。

なお、美術学科とビジネス実務学科は、現在のところリカレント教育は行っていない。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

幼児教育学科の「リカレント教育」は、試行段階であり、今後、制度化に向けた検討が必要である。

- (c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

幼児教育学科の「リカレント教育」は試行段階であり、制度としての取組に向けた検討を行う。

基準 (5) 職業教育を担う教員の資質（実務経験）向上に努めている。

- (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

職業教育を担う教員の資質（実務経験）については、次のとおり向上に努めている。

幼児教育学科の教員は、実習時の訪問指導以外にも現場と接する機会を多く持ち、それらを通じて資質の向上に日々努めている。

美術学科の教員は、それぞれの専門分野の外部団体や美術団体に所属しており、日々の制作活動を通して研鑽を積み、毎年公募展等に出品して成果を出している。

ビジネス実務学科の教員は、平成 22（2010）年度に採択された文部科学省の「就業力 GP」の取組のなかで、教員自らが企業でインターンシップを行い、実践力を磨きながら、企業が人材として望むリアルなニーズを体得し、学生のキャリアデザイン指導に活かしている。平成 24（2012）年度は、地元金融機関・企業等に延べ 9 人参加し、企業の採用実態や、社員研修の取組内容を学ぶことで職業教育を担う教員の資質向上を図った。

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

大学卒業後あるいは、大学院修了後すぐに本学に採用された教員に対する職業教育の充実が必要である。

- (c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

平成 24（2012）年度文部科学省の「産業界ニーズ GP」の教員インターンシップに参加することで教員の資質向上に努める。

基準 (6) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。

- (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

職業教育の効果を測るものとしては、就職決定率や各種資格の取得状況があげられる。

過去 3 年の就職決定率（就職者数／就職希望者数）の平均は、幼児教育学科が 100%、美術学科は 59.2%、ビジネス実務学科が 97.8%である。美術学科の就職決定率のアップのため、平成 24（2012）年度からは企業見学などを積極的に行い、改善に取り組んでいる。

また、保育士資格の取得率は、3 年間の平均が 98.3%、幼稚園教諭 2 種免許

の取得率は、3年間の平均が88.0%である。美術学科は、色彩士検定、Excel表計算処理技能認定試験、Illustratorクリエイター能力認定試験などの検定試験に合格者を出している。ビジネス実務学科は、秘書技能検定などのビジネス教養系3検定、ファイナンシャル・プランニング技能検定や日商簿記検定などの金融・簿記系3検定、Excel表計算処理技能認定試験などコンピュータ系6検定、医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）など医療事務系3検定、旅程管理主任者の観光系2検定で、計17検定で多くの合格者を出している。全国平均合格率を上回るものもあり、また2級以上の受験者数・合格者数もほぼすべての検定試験で増加しており、組織的なサポートが機能している。医療秘書プランの達成目標の1つであった日本医療教育財団の医療事務系3検定（メディカルクラーク、メディカルオペレータ、ドクターズクラーク）の全取得者が7人いる。また、メディカルクラーク（医療秘書プラン以外の学生も含む）の取得希望者35人中22人（62.9%）が取得した。なお、ビジネス実務学科の1年生が平成24（2012）年度中に取得した検定試験の内、「ビジネス文書検定」が今年度の「文部科学大臣賞」に、「秘書検定」についても「団体優秀賞」に選ばれている。

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。
特になし。
- (c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。
特になし。